

# 《資料館便り》

平成 29 (2017) 年

4 月号

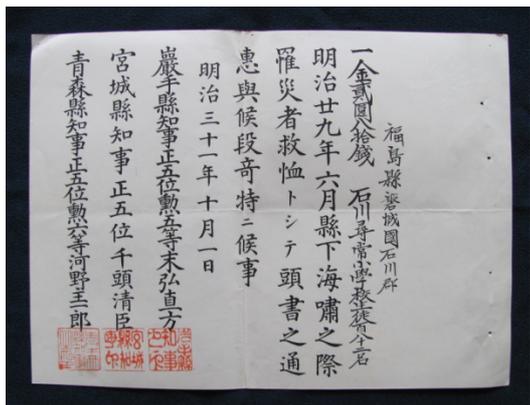
石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49 (1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館  
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

## 120年前にもあった！

### ～明治三陸大津波義援金～

#### 旧石川小学校古書類調査から判明



↑ 発見された「感謝状」(生徒向：旧石川小学校蔵)

福島縣磐城国石川郡  
一 金貳圓八拾錢 石川尋常小学校生徒百八十二名  
明治廿九年六月縣下海嘯之際  
罹災者救恤トシテ頭書之通  
惠與候 段奇特ニ候事  
明治三十一年十月一日  
巖手縣知事正五位勲五等末広直方  
宮城縣知事正五位 千頭清臣  
青森縣知事正五位勲六等 河野主一郎

※海嘯：本来は、干満潮の差によってできる逆流現象を指しますが、「津波」の意味に誤用されて来ました。

今から約 120 年

「感謝状」の全文⇒

前、明治 29 年 (1896) 6 月 15 日午後 7 時 32 分、現在の岩手県釜石市の東方沖約 200 km の海底を震源とするマグニチュード 8 の巨大地震が起きました。これにともなって、巨大津波が三陸海岸を襲い、宮城・岩手・青森の三県が被災し、死者行方不明者が 2 万人を超える惨憺たる状況となりました。これが、「明治三陸大津波」と称される大災害です。「東日本大震災」そのままの様子が彷彿とされる状況であったことは、容易に想像されます。

ところで、当館が 3 年前から実施している、町内小中学校の統合に伴う、「学校所蔵古書類調査」から、120 年前にも被災地への募金活動が学校において行われていた事実が判明しました。

つまり、今回の調査で、石川小学校の古い綴が発見され、その中に、「明治三陸大津波」の義援金に対する、被災三県知事連名の感謝状が見つかったのです。感謝状は 2 枚あり、1 枚は生徒 182 名に対して、もう 1 枚は職員 5 名に対してのものです。感謝状の上部には、ピン穴の痕跡が 3 か所認められ、当時廊下や教室に掲示されたであろうことが想像できます。

「東日本大震災」を経験し、現在もその渦中にある私たち石川町民、福島県民だからこそ、この 2 枚の感謝状の持つ意味の重要性、大きさがつくづく実感されます。

一昨年、平成 27 年 (2015) 5 月 29 日、鹿児島県屋久島町口永良部島の新岳 (標高 626m) が大噴火し、全島民が隣の屋久島に避難しました。口永良部島の金岳小・中学校には、福島県と鹿児島県の教員交流によって、石川中学校に勤めていた先生が偶然にも赴任していました。石川小学校、中学校では早速、全校の児童生徒・職員が募金を行い、同島に贈りました。同先生の感激した様子が報道されたことは、まだ記憶に新しい所です。

古い綴から、この町には「絆」の精神が 120 年も前から脈々と受け継がれていることが分かり、驚嘆せざるを得ません。

↓ 明治時代の公文書綴 (旧石川小学校蔵)

